

(2) 事業の必要性と背景

コロナパンデミック前に、フィリピンの経済成長率はアジア上位の6~7%¹を記録している。フィリピンの一人当たり国民所得が3,000ドル²を超え、中間層の広がりがみられ、自動車や嗜好品などへの消費も活発になりつつある。

一方でパタグ村のような高地の農家は、粗放的な農業を行っているが、自家消費がほとんどである。一部住民は森林を違法伐採し、都市向けの炭焼きで生計を立てている。事業地農家の1世帯当たりの収入は10,000円/月以下³で、貧困層に属する。西ビサヤ貧困層の未就学率が74.9%⁴に達する。このコロナ禍で貧困家庭が交通手段を奪われ、仕事を失くし、より困窮度合いが増している。

パタグ村の大部分の農地・放牧地は都市部の富裕層に抑えられ、定住する農民の農地は小規模であるが、通年栽培で高付加価値のあるイチゴは小規模な農地でも一定の収入を得ることができる。

昨今の中間層増大に伴い、イチゴの需要が拡大⁵してくると考えられ、イチゴの生産・販売は現地の状況に即しており、またイチゴをブランド化することにより地域の観光機能の向上も図ることができる。

1・2年次において新型コロナウイルス感染症拡大に伴うロックダウンがネグロス島でも発令され、労働者と材料の移動制限や高温障害により、苗の本数を増やすことができなかった(9月現在、苗の目標9,000本のうち、5,500本)。1・2年次で実現できなかった生産農家の拡大を実施し、プロジェクトの遅れを挽回する。日本農家が得意とするGAP⁶、農薬、肥料の管理方法を供与することによって、目標の収穫量を確保する。品質を向上(収量、糖度等)させる日本の栽培技術の導入とイチゴの加工による増収モデルを確立する。

これらの取組によって、最終的には貧困の解消、就学率の向上に寄与し、農業、観光業部門で新しい就業機会を生み出し、地域経済の活性化に寄与する。

●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性

SDGs1 「貧困をなくそう」 SDGs8 「働きがいも 経済成長も」
SDGs11 「住み続けられるまちづくりを」 SDGs15 「陸の豊かさも守ろう」

ジェンダー平等	環境援助	参加型開発/ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災
0:目標外	1:重要目標	2:主要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動(緩和)	気候変動(適応)	砂漠化
0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外

●外務省の国別開発協力方針との関連性

フィリピン国 国別開発協力方針

- ・重点分野2: 包摂的な成長のための人間の安全保障の確保
- ・開発課題2-2: 農業生産性向上・高付加価値化
- ・関連する協力プログラム: 農業生産性の向上や高付加価値化の促進による農業従事者の所得の向上

¹ 2017年フィリピン統計局資料

² 2017年IMF統計による

³ 2018年弊団体によるBAFA住民への聞き取り調査

⁴ マリア・ロザリオ・ピケロ・バレスカス東洋大学教授; フィリピンの未来を担う子どもたち」2012年

⁵ 2018年日本総研調査によると、所得向上に伴いアジアでの農産物需要が、わが国に比較的競争力のある品目にシフトしつつある可能性が示されており、イチゴもその中に含まれている。

⁶ Good Agricultural Practice: 農業生産工程管理のことで、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組

<p>(3) 上位 目標</p>	<p>イチゴの栽培を6次産業化・観光化し、フィリピン・ネグロスの高地に産業として拡大することにより、農家の生計向上を見込むことができ、貧困の解消、就学率の向上につながる。</p>														
<p>(4) プロ ジェクト目 標 (事業達成 目標)</p>	<p>フィリピン国パタグ村、及びネグロス島高地において、日本のイチゴの栽培技術・観光農園運営手法を取り入れて、高付加価値のイチゴの栽培・流通・販売体制の構築を目指す。</p> <p>パタグ村でイチゴの観光農業によって農家の収入向上の道筋がつく。また、イチゴ栽培がネグロスの高地に拡大する仕組みが確立する。</p>														
<p>(5) 活動 内容</p>	<p>① 3年次の活動内容</p> <table border="1" data-bbox="375 568 1449 2033"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="375 568 1449 613"> <p>3年次</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 613 422 658"> <p>(ア)</p> </td> <td data-bbox="422 613 1449 770"> <p>イチゴ栽培用の農場の整備 ビニールハウス等の建設用の4農場を整地する。ビニールハウスの建設の準備が整う。週1回、スタッフが同行し、計画との齟齬がないかチェックする。作業期間は2か月。労働者60人日などを投入する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 770 422 815"> <p>(イ)</p> </td> <td data-bbox="422 770 1449 1106"> <p>ビニールハウスの建設 4農場にイチゴ栽培用のビニールハウス6棟を建設し、外構を整える。1、2年次の整備により4農場への給水が充足したため、3年次においてタンクを建設しないこととする。以上の活動のために、ビニールハウス320,000ペソ×6棟、工事用消耗品10,000ペソ、センサーライト、労働者1,800人日などを投入する。イカオ・アコとBAFAが分担しながら5カ月の期間中の監視・安全確認を行う。施工現場では棟梁との打合せを毎週行い、施工を管理する。工期の遅れが発生する状況に備えて、以前から使用している竹製のビニールハウスの活用と補修を図る。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 1106 422 1151"> <p>(ウ)</p> </td> <td data-bbox="422 1106 1449 1285"> <p>高設栽培用の架台の設置 ビニールハウスの内部に、高設栽培用の架台を設置する。全ての苗に行きわたる灌水用のパイプを敷設し、タンクと接続する。作業期間は3か月を要する。以上の活動のために、高設栽培用架台170,000ペソ×6、灌漑用パイプ151,040ペソ×1、労働者300人日などを投入する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 1285 422 1330"> <p>(エ)</p> </td> <td data-bbox="422 1285 1449 1576"> <p>土壌生産、苗の育成 BAFAが中心となり土壌の作成を行う。栽培土壌をコンポスト、もみ殻燻炭、畑の土壌を混合する。生産性向上のため、日本の肥料を使用し、試験栽培する。3年次終了時、18,000本の苗を育成する。外部から2,000苗を購入する。以上の活動のために、工事用消耗品5,000ペソ、土壌を作成するため資材などを投入する。完工式を兼ねて、BAFA、イカオ・アコ、行政関係者、住民団体が集まり、今後の課題と展望を共有するためのワークショップを1回開催する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 1576 422 1621"> <p>(オ)</p> </td> <td data-bbox="422 1576 1449 1957"> <p>品質安定化と収量の増加 1・2年次に実施できなかったオンサイト研修と本邦研修を補完するため、肥料の専門会社であるハイポネックスジャパンと経済特区に進出している種苗会社MKPにパタグ村に適した苗の育成方法、GAPの実現についてノウハウを移転する。高設栽培、液肥の施用などにより、生産効率の目標を2.0t/年・10aを実現し、BAFAによる果実の販売収入は540万円/年となる。4人のイチゴ農場プロジェクトマネージャーが住民に指導しながら、パタグ村に適した管理手法を4農場で実証する。なお、イチゴ農場プロジェクトマネージャーはイチゴ農園サイトの責任者であり、工事のサポートやイチゴの栽培・収穫、BAFAメンバーへ指導を行う。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="375 1957 422 2002"> <p>(カ)</p> </td> <td data-bbox="422 1957 1449 2033"> <p>行政とタイアップした一般農家へのサポート FEDIC、OPA⁷と共同で農家向けの説明会を開催(50農家)し、BAFAがイチゴ</p> </td> </tr> </table>	<p>3年次</p>		<p>(ア)</p>	<p>イチゴ栽培用の農場の整備 ビニールハウス等の建設用の4農場を整地する。ビニールハウスの建設の準備が整う。週1回、スタッフが同行し、計画との齟齬がないかチェックする。作業期間は2か月。労働者60人日などを投入する。</p>	<p>(イ)</p>	<p>ビニールハウスの建設 4農場にイチゴ栽培用のビニールハウス6棟を建設し、外構を整える。1、2年次の整備により4農場への給水が充足したため、3年次においてタンクを建設しないこととする。以上の活動のために、ビニールハウス320,000ペソ×6棟、工事用消耗品10,000ペソ、センサーライト、労働者1,800人日などを投入する。イカオ・アコとBAFAが分担しながら5カ月の期間中の監視・安全確認を行う。施工現場では棟梁との打合せを毎週行い、施工を管理する。工期の遅れが発生する状況に備えて、以前から使用している竹製のビニールハウスの活用と補修を図る。</p>	<p>(ウ)</p>	<p>高設栽培用の架台の設置 ビニールハウスの内部に、高設栽培用の架台を設置する。全ての苗に行きわたる灌水用のパイプを敷設し、タンクと接続する。作業期間は3か月を要する。以上の活動のために、高設栽培用架台170,000ペソ×6、灌漑用パイプ151,040ペソ×1、労働者300人日などを投入する。</p>	<p>(エ)</p>	<p>土壌生産、苗の育成 BAFAが中心となり土壌の作成を行う。栽培土壌をコンポスト、もみ殻燻炭、畑の土壌を混合する。生産性向上のため、日本の肥料を使用し、試験栽培する。3年次終了時、18,000本の苗を育成する。外部から2,000苗を購入する。以上の活動のために、工事用消耗品5,000ペソ、土壌を作成するため資材などを投入する。完工式を兼ねて、BAFA、イカオ・アコ、行政関係者、住民団体が集まり、今後の課題と展望を共有するためのワークショップを1回開催する。</p>	<p>(オ)</p>	<p>品質安定化と収量の増加 1・2年次に実施できなかったオンサイト研修と本邦研修を補完するため、肥料の専門会社であるハイポネックスジャパンと経済特区に進出している種苗会社MKPにパタグ村に適した苗の育成方法、GAPの実現についてノウハウを移転する。高設栽培、液肥の施用などにより、生産効率の目標を2.0t/年・10aを実現し、BAFAによる果実の販売収入は540万円/年となる。4人のイチゴ農場プロジェクトマネージャーが住民に指導しながら、パタグ村に適した管理手法を4農場で実証する。なお、イチゴ農場プロジェクトマネージャーはイチゴ農園サイトの責任者であり、工事のサポートやイチゴの栽培・収穫、BAFAメンバーへ指導を行う。</p>	<p>(カ)</p>	<p>行政とタイアップした一般農家へのサポート FEDIC、OPA⁷と共同で農家向けの説明会を開催(50農家)し、BAFAがイチゴ</p>
<p>3年次</p>															
<p>(ア)</p>	<p>イチゴ栽培用の農場の整備 ビニールハウス等の建設用の4農場を整地する。ビニールハウスの建設の準備が整う。週1回、スタッフが同行し、計画との齟齬がないかチェックする。作業期間は2か月。労働者60人日などを投入する。</p>														
<p>(イ)</p>	<p>ビニールハウスの建設 4農場にイチゴ栽培用のビニールハウス6棟を建設し、外構を整える。1、2年次の整備により4農場への給水が充足したため、3年次においてタンクを建設しないこととする。以上の活動のために、ビニールハウス320,000ペソ×6棟、工事用消耗品10,000ペソ、センサーライト、労働者1,800人日などを投入する。イカオ・アコとBAFAが分担しながら5カ月の期間中の監視・安全確認を行う。施工現場では棟梁との打合せを毎週行い、施工を管理する。工期の遅れが発生する状況に備えて、以前から使用している竹製のビニールハウスの活用と補修を図る。</p>														
<p>(ウ)</p>	<p>高設栽培用の架台の設置 ビニールハウスの内部に、高設栽培用の架台を設置する。全ての苗に行きわたる灌水用のパイプを敷設し、タンクと接続する。作業期間は3か月を要する。以上の活動のために、高設栽培用架台170,000ペソ×6、灌漑用パイプ151,040ペソ×1、労働者300人日などを投入する。</p>														
<p>(エ)</p>	<p>土壌生産、苗の育成 BAFAが中心となり土壌の作成を行う。栽培土壌をコンポスト、もみ殻燻炭、畑の土壌を混合する。生産性向上のため、日本の肥料を使用し、試験栽培する。3年次終了時、18,000本の苗を育成する。外部から2,000苗を購入する。以上の活動のために、工事用消耗品5,000ペソ、土壌を作成するため資材などを投入する。完工式を兼ねて、BAFA、イカオ・アコ、行政関係者、住民団体が集まり、今後の課題と展望を共有するためのワークショップを1回開催する。</p>														
<p>(オ)</p>	<p>品質安定化と収量の増加 1・2年次に実施できなかったオンサイト研修と本邦研修を補完するため、肥料の専門会社であるハイポネックスジャパンと経済特区に進出している種苗会社MKPにパタグ村に適した苗の育成方法、GAPの実現についてノウハウを移転する。高設栽培、液肥の施用などにより、生産効率の目標を2.0t/年・10aを実現し、BAFAによる果実の販売収入は540万円/年となる。4人のイチゴ農場プロジェクトマネージャーが住民に指導しながら、パタグ村に適した管理手法を4農場で実証する。なお、イチゴ農場プロジェクトマネージャーはイチゴ農園サイトの責任者であり、工事のサポートやイチゴの栽培・収穫、BAFAメンバーへ指導を行う。</p>														
<p>(カ)</p>	<p>行政とタイアップした一般農家へのサポート FEDIC、OPA⁷と共同で農家向けの説明会を開催(50農家)し、BAFAがイチゴ</p>														

⁷ 後述するように PEDIC は Provincial Economic Development & Investment Center の略称、OPA は Office

の苗と資材(土壌)を村外の一般農家に販売するトリガーとする。その説明会で配布する栽培方法と管理方法の情報をパンフレット化する。イチゴ栽培は一定の初期投資が必要であるため、一般農家が新規参入することが難しい。一般農家が参入しやすいように、研修にプラスして、農家に資金を貸与する仕組みの導入をFEDICに働きかける。以上の準備のために、行政とのミーティング10回の開催費6,000ペソを投入する。3年次に計画していたパンフレット作成を2年次に実施するため、3年次提案書には記述していない。

(キ) 販売先確保のためのツールの開発と販売パートナーとの協働

販売先の開拓とそのためのパンフレット等の作成、パッケージングの開発、ロゴのデザイン化を外部の業者と共同で実施する。また、パタグ村でジャムづくり研修会やマーケティング研修会をBAFA主催で数回開催する。以上の活動のために、ロゴデザイン(バナー・看板に活用)64,000ペソ、ラベルデザイン・ラベル印刷10,000ペソ、販売方法・パッケージング・ロゴなどに詳しい流通専門家(研修会講師)15,000ペソなどを投入する。1年次に提案していたラベルプリンターの消耗品がフィリピンでは入手困難であるため、プリンターの購入を断念し、ラベルの印刷を外注する。新規市場を開拓するために、販売のパートナーとなる企業を選定する。協働でターゲット層への効果的な販促活動を実施し、販路を拡大する。

(ク) 観光農園の運営(カフェの建設を含む)

観光農園の計画をシライ市と相談しながら立案し、その運用を開始する。また、イチゴの観光農園の運営のノウハウ(宣伝、客の流し方、加工品の展示、必要な機器など)、関連産業の状況(加工場の運営、流通の仕組みなど)を流通専門家から学び、パタグ村での観光農園を運営する十分な能力を形成する。果実の加工(実習を含む)を料理専門家による研修を行う。15,000ペソx2日を想定する。温室のあるサイト自体が観光施設になると想定され、当初提案した1か所にカフェを建設するのではなく、3つのサイトそれぞれに付属する小規模カフェスタンドを設置し、観光農業機能の強化を目指す。作業期間は4カ月である。以上の活動のために、カフェ建設600,000ペソx3、アクセス道405,000ペソ(車が安全に通行できるように砂利を敷設)、労働者900人日、バナー・看板64,000ペソを投入する。

(ケ) 新型コロナウイルス感染症対策

屋外の工事等の作業にかかわる労働者一人ひとりに対して、熱中症予防に配慮しながら、マスク等を着用すべき場面(2メートル以内の作業が多い)を特定し、その着用を周知する。接触感染防止のため、作業員が共用する工具等を適宜、消毒する。室内では、勤務中の十分な換気とマスクの着用を促す。2メートルを目安に、一定の距離を保てるよう、人員配置について配慮する。始業時、休憩後を含め、定期的な手洗いを徹底する。

② 導入予定の主要機材(3年次)

項目	内容
(ア) 導入機材	イチゴ高設栽培システム
(イ) 仕様	灌水と施肥を自動化するタンク、ポンプ、パイプ、温室、高設栽培用架台、有機質素材の培養土
(ウ) 価格	温室1棟(100㎡)70万円と高設栽培用架台37万円 ⁸

of Provincial Agriculture の略称で州の外郭団体

⁸ 業者によって設置できる温室が規格化されている。1年次の業者が新型コロナの影響で辞退され、探し出した新事業者が100㎡の規格品しか持ち合わせていなかったため、そのサイズとなった経緯がある(事業変更済み)。見かけの栽培数が2,000と減少しますが、回転数を上げることやスタートアップ時の別温室を使用し

	(エ)数量	温室 6 棟			
	(オ)各導入機材数量の妥当性	現地の材料の高設栽培用架台を設置し、作業効率をアップする。1年毎に、3戸の農家が参入し、1農家あたり2,000本の苗を設置する。耐用年数は20-30年。			
	(ア)導入機材	イチゴを活用したカフェスタンド			
	(イ)仕様	キッチン・接客スペース・トイレ 30 m ²			
	(ウ)価格	コンクリート造建物 132 万円			
	(エ)数量	3 棟 (1年次提案では大規模1棟であったが、3つの温室サイトごとに小規模なカフェ x3を建設)			
	(オ)妥当性	キッチン設備一式・チェア 6x3、ソーラー発電 2 組			
	③ 裨益人口 (パタグ村の全人口は 2,000 名、500 家族)				
	直接裨益人口 : (1年次実績) 55 名。栽培戸数はコア、サブ地域、周辺地域合計で 15 家族となる。				
	(2年次見込み) 裨益人口は 125 名。栽培戸数はコア、サブ地域、周辺地域合計で 22 家族となる。				
	(3年次) 裨益人口は 140 名。栽培戸数はコア、サブ地域、周辺地域合計で 25 家族となる。				
	(3年間合計) 直接裨益人口は 320 名。栽培戸数は 62 家族。				
	間接裨益人口 : (1年次実績) 40 名。新型コロナウイルスの影響により、パタグにあるリゾート、カフェが休業し、観光業などとの連携が不可能であったため、間接裨益人口は建設に関連する家族(10家族程度)に限定される。				
	(2年次) 新たに間接裨益人口 800 名。本事業により、関連産業の振興により収入が増加する 200 家族 ⁹				
	(3年次) 新たに間接裨益人口 400 名。本事業により、関連産業の振興により収入が増加する 100 家族				
	(3年間合計) パタグ村内で間接裨益人口 1,240 名、310 家族。18%の収入増加 パタグ村外で間接裨益人口 25,100 名				
(6) 期待される成果と成果を測る指標	成果指標の設定 (当初)				
	期待される成果	成果指標	1年次	2年次	3年次
	1 栽培方法の確立				
	現地に適合した技術、設備を使用して、高品質イチゴ (糖度 10~12、一粒の重量 12 グラム ¹⁰) の栽培が可能	① 温室数 (棟)	6	6	6
		② 栽培農家数 (戸)	15	15	19
		③ パタグ栽培本数	9,000	9,000	9,000
サブコア本数		5,000	10,000	15,000	
④ 糖度		8	10	12	
⑤ 一粒重量	9	12	15		

て生産量を維持する計画です。業者の変更に伴い、価格の数字も変化した。

⁹ 9つのリゾート、4つのレストラン等の利用客が増加し、2年後、従業員約 120 人の所得が増加する。その他、物販、納入業者、交通機関に従事する約 80 人の所得も間接的に増加する。3年次はその 2 分の 1。

¹⁰ 日本のイチゴの糖度は 9 から 15 であり、本事業では中央値の糖度 12 を目指す。スタートアップの段階で一粒重量は 9 グラムであるが、日本平均の 20 グラムにできるだけ近づけたい。

2 イチゴの生産拡大				
資材、人材が 整い、高設栽 培システムを 構築し、果実 の生産性が日 本並みの 2.0t/年・10a に向上する	① 10a 当り ¹¹ 収穫 量	1.0	1.6	2.0
	② 年度収穫金額 (円)	90 万	288	540
	③ 1 農家収入 (円)	6 万	15	24
	④ 〃 コア農家収 入	2	5	8
	④ 〃 収入伸び率 (%)	46	115	184
	⑤ 苗・資材の販売 (本)	-	-	10,000
⑥ 〃 販売額	-	-	200 万円	
3 観光農園の運用と販路の確保				
特産品として 高品質イチゴ が認知され、 販路が 200% ¹² 拡大すると ともに、観光 農園により、 パタグ村の観 光客が 20%増 大する。以 上により BAFA と観光関連産 業従事者の所 得が平均 68% ¹³ 向上	① 固定的生産量 (t)	0.9	1.44	1.8
	② 〃 売上額 (万 円)	90	288	540
	③ 加工場顧客数	-	1,500	5,000
	④ カフェ顧客数	-	-	5,000
	⑤ 加工場・カフェ のイチゴ消費 (t)	-	0.225	1.7
	⑥ 〃 売上高 (万 円)	-	45	220
	⑦ イチゴ園入場者	500	2,000	12,000
	⑧ 〃 入場料収入	2	8	48 万円

¹¹ 日本の多くの文献が「10a 当たり」(約 1 反) という原単位を使用しているため、ここでもそれに倣った。スタートアップで 0.5~1.0t の生産性を挙げているため、1 年目の目標を 1.0t とした。3 年目で一農家が 3,000 本の苗を栽培し、年間収益を 24 万円とするためには 2.0t を目標にする必要がある。¹¹ 農家 1 戸当たりの損益分岐点を予測すると、10a あたり 0.75 トン/年である。

¹² 現在、試験販売中で量が多くないため、1 年目の 0.9 をベースとして 3 年目の 1.8x3=2.7 の伸び率を単純に計算した。1 年次、2 年次はパタグ村内で観光用として販売、3 年次より域外での販売を本格的に行う。

¹³ イチゴ販売の収益が 540 万円 (2.7 万本×生産効率 2.0×キロ 1,000 円の利益) となる。カフェ・加工場の売り上げ 220 万円、苗・土壌の売り上げが 200 万円であり、収益率 50% で利益は 210 万円となる。540+210=750 万円の収益となる。産業連関表では業種別にばらつきがあるものの乗数係数は 2.0~3.0 で、中間値 2.5 を採用した。750×2.5=1,875 万円の間接効果がある。パタグは都市部から離れているため、やや孤立した経済圏を形成している。地元に着る割合が過半数であると判断し、0.6 の数字を採用した。事業者・労働者の分配率を 0.6 とし、間接 1125*0.6/310 家族=2.2 万円の年収増となる。現状の年収は 12 万円であるので 2.2/12=18% の伸び率となる。

パタグ村外の間接裨益人口は、パタグ村近傍の村の住民 2.5 万人とネグロス島高地でイチゴ栽培に興味を持つ 100 人と想定される。

	<p>(成果の確認方法) 温室数(棟)は完工時の検査で確認可能である。栽培農家数(戸)、栽培本数(本)、糖度、を栽培記録簿に記載する。生産量(t)、一粒重量(g)、10a 当り収穫量は栽培記録簿と収穫記録簿にて計算が可能である。日本での研修(人)は研修報告書、航空券チケットなどにて確認する。売上額(万円)、1農家の収入(万円)、収入伸び率(%)、苗・資材の販売(本、金額)を出納帳で確認が可能である。加工場顧客数、カフェ顧客数、加工場・カフェのイチゴ消費(t)、売上高(万円)は出納帳にて確認が可能である。イチゴ園入場者数を別途カウントして記録する。</p> <p>実績の状況(1年半の成果)</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="3">達成</td> <td>1</td> <td>① ②ハードウェアの整備、予定の栽培者数の決定が年度内に終了する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>① 10a あたり収穫量は0.944である。ほぼ1年次の目標達成(2年次終了時に再評価)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(3年次終了時に評価)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">未達</td> <td>1</td> <td>③ 高温障害により苗が死滅、年度末までに回復する計画、対策としてシャワーを温室内に設置している段階である(日本ではエアコン整備) ④ 糖度8以上が40%にとどまる。以前使用していた Hyponex(日本)の肥料に切り替え、改善を行う。 ⑤ 平均9グラム以下であり、上記の対応を行う。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>②③④ 1年次のハウス建設の遅れや、高温障害で販売できる量の確保ができておらず、2年次後半の収穫を確保する。現在、5,500本の数まで回復。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(3年次終了時に評価)</td> </tr> </table>	達成	1	① ②ハードウェアの整備、予定の栽培者数の決定が年度内に終了する	2	① 10a あたり収穫量は0.944である。ほぼ1年次の目標達成(2年次終了時に再評価)	3	(3年次終了時に評価)	未達	1	③ 高温障害により苗が死滅、年度末までに回復する計画、対策としてシャワーを温室内に設置している段階である(日本ではエアコン整備) ④ 糖度8以上が40%にとどまる。以前使用していた Hyponex(日本)の肥料に切り替え、改善を行う。 ⑤ 平均9グラム以下であり、上記の対応を行う。	2	②③④ 1年次のハウス建設の遅れや、高温障害で販売できる量の確保ができておらず、2年次後半の収穫を確保する。現在、5,500本の数まで回復。	3	(3年次終了時に評価)
達成	1		① ②ハードウェアの整備、予定の栽培者数の決定が年度内に終了する												
	2		① 10a あたり収穫量は0.944である。ほぼ1年次の目標達成(2年次終了時に再評価)												
	3	(3年次終了時に評価)													
未達	1	③ 高温障害により苗が死滅、年度末までに回復する計画、対策としてシャワーを温室内に設置している段階である(日本ではエアコン整備) ④ 糖度8以上が40%にとどまる。以前使用していた Hyponex(日本)の肥料に切り替え、改善を行う。 ⑤ 平均9グラム以下であり、上記の対応を行う。													
	2	②③④ 1年次のハウス建設の遅れや、高温障害で販売できる量の確保ができておらず、2年次後半の収穫を確保する。現在、5,500本の数まで回復。													
	3	(3年次終了時に評価)													
<p>(7) 持続 発展性</p>	<p>事業の終了後に、事業の効果を維持していくための計画</p> <p>① <u>研修支援事業のルーチン化(州との協働)</u> PEDICはビニールハウスを普及することを1つの施策とし、OPAは技術指導、トレーニングの分野で農家を集客する力がある。農家向けのセミナーをイカオ・アコと共同で継続的に開催する。BAFAが取組むイチゴ栽培の講演と、行政からの優遇策の紹介等を行う。PEDIC、OPAと組むことにより相乗効果を得ることができ</p> <p>② <u>市による観光農業の振興と地元の支援(シライ市と村役場との協働)</u> シライ市観光課は、3年間のスタートアップに刺激を受け、観光農園を「パタグ村観光計画」の一要素にすることを企画している。シライ市役所と村議会と協議しながら観光農業をさらに充実させたい。既存のリゾートからの期待度も大きく、成果やジャムの販売、お土産品の開発などで協働を模索する。将来、観光客を増加させる。</p> <p>③ <u>ネグロス島全体への出荷の計画(民間企業との連携)</u> 他地域の追随を許さない高品質のイチゴ果実を産出し、バコロド、シライ周辺での販売が好調に推移する数年後に、果実をネグロス全土への出荷を計画する。コールドマーケットの調査、出荷の障壁の調査、傷みやすいイチゴを衝撃から守るパッケージング開発など関係組織と連携して作業を進める。</p> <p>⑥ <u>事後状況調査の候補</u> 事業終了後、資機材の維持管理をBAFAが担い、事業を確実に引き継ぐ。イカオ・アコは定期的にモニタリングを行う。 施設調査の候補として、</p>														

	<p>a. イチゴ農場（高品質イチゴを産出しているか、観光客を集めているか）</p> <p>b. 加工場（イチゴ加工品を生産しているか、販売所として機能しているか）</p> <p>c. カフェ（イチゴを活用したメニューで観光客の興味を引いているか）</p> <p>の施設があげられる。そのほか、マネジメントや会計処理などのインタビューの候補として、シライ市役所、住民組織 BAFA があげられる。</p>
--	--